第５章　環境について自ら考え行動する人づくり

第１節　学校における環境教育の促進

1　環境教育の実施体制の整備

（1）里山里海湖学校教育プログラム集

【自然環境課】

里山里海湖について、小中学校教員が児童・生徒を指導するためのプログラムを、現場の教員の意見を踏まえながら作成しました。

表 5-1-1　これまでに作成したプログラム

	プログラム名
25 年度	道徳読み物資料 ・「じいちゃんからの宿題」 ・「世界の標準時計となった『水月湖の年縞』」
26 年度	三方五湖周辺体験プログラム
27 年度	北潟湖周辺体験プログラム 六呂師高原周辺体験プログラム
28 年度	丹南地域周辺体験プログラム
30 年度	三方五湖周辺体験プログラム改訂 （福井県年縞博物館を追加　他）
元年度	北潟湖周辺体験プログラム改訂 六呂師高原周辺体験プログラム改訂

平成 26 年度から作成している体験プログラムは、身近な里山里海湖を実際に体験することにより保全の意識を高め、自主的な活動を促すことを目的としており、すべての小中学校へ配布しました。これにより、小中学校の教員が、「里山里海湖とは何か」、「里山里海湖でどんな活動ができるのか」を知ることができる手引書としての活用と「里山里海湖の恵み」を児童・生徒に実体験させることができるものと期待しています。

さらに、それぞれの地域の特性を活かした体験活動を実施することで、より福井の里山里海湖の魅力を実感し、保全・再生の意識を向上させていけるものと考えています。

今後とも、系統立てた環境教育を推進できるよう、学校の年間指導計画に位置付けていけるよう努めていきます。

表 5-1-2　令和元年度にプログラムを体験した学校数・人数（令和元年９月末現在）

	学校・団体数	児童・生徒数
三方五湖	16 校・団体	733 名
北潟湖	3 校・団体	70 名
六呂師	14 校・団体	963 名
丹南	69 校・団体	3,437 名
合　計	102 校・団体	5,203 名

学校教育プログラム「どんぐりアート（樹木の解説）」

（2）環境・エネルギー教育支援事業

【義務教育課・高校教育課】

県内の小・中・高等学校を対象に、地域の特色に応じた実践を通して、児童・生徒の理解を深め、自ら考え、判断し、よりよく環境・エネルギー問題を解決する力を育成することをねらいとした「環境・エネルギー教育支援事業」を推進しています。

小学校では、ソーラー発電や風力発電を学習する教材の活用やエネルギー教育関連施設の見学を通して、環境・エネルギー教育を進めています。

中学校では、放射線測定器や発電モデル実験器等を購入し、実験や観察を通して放射線の性質や様々な発電方法について正しい知識と科学的な理解を深める授業を充実させています。

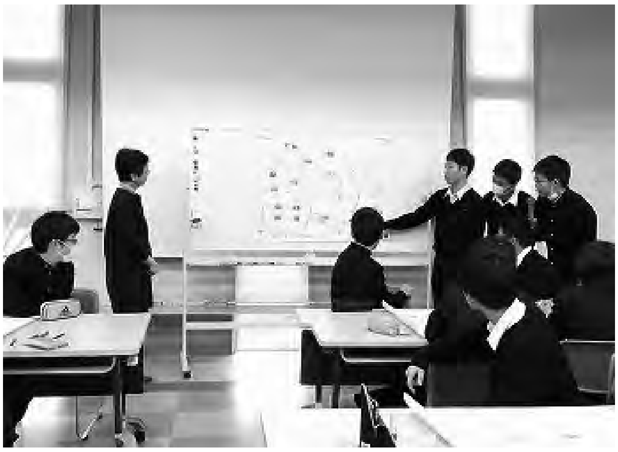
高等学校では、実験用の放射線源を用いた放射線量の測定や発電効率に関する授業を実施し、発展的な環境・エネルギー教育を進めています。さらに、専門家による講演会や施設見学会等を通してエネルギー問題や放射線に対する理解を深める取組みを実践しています。

今後も、各校の取組みを県内全体に広め、環境・エネルギー教育の一層の普及に努めていきます。

	29 年度	30 年度	元年度
環境・エネルギー教育に関連する施設等の見学	11 校	9 校	9 校
講師による講演や意見交換会での指導および助言	4 校	2 校	2 校
エネルギー教育に関する資材・機材の活用方法の研究	31 校	34 校	51 校

表 5-1-3　環境・エネルギー教育支援事業取組状況

ミステリーカードを関連付ける作業の様子



発表の様子

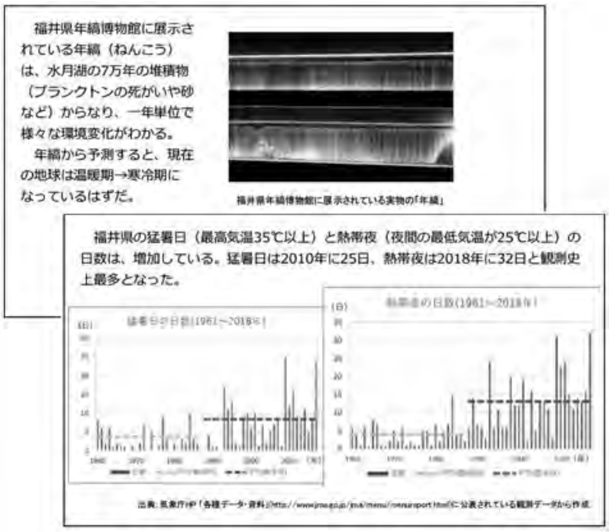
（３）福井県気候変動教育プログラム

【環境政策課】

地域で地球温暖化防止や気候変動の適応に向けた活動を企画・実施できる人材を育成するため、ドイツの気候変動教育プログラムを参考に、中学生・高校生を対象とした福井県独自の気候変動教育プログラムの開発を行っています。

令和元年度は、プログラムの導入部分となる「福井県版ミステリーカード」を開発しました。福井県版ミステリーカードは 24 枚で構成されていて、県内、国内、世界で生じている気候変動に起因する現象や問題を図表等と共に記載しています。

学習者はいくつかの問いかけを基に、カードに共通する原因や現象についてグループで議論し、全てのカードを論理的に関連付ける作業をしながら自分のグループの考えをまとめ、最後に発表と質疑応答を行います。これらを通して、気候変動によって生じる問題が複雑に絡み合っていることに気付き、全体的・多面的・体系的に理解するシステム思考の力を育むことを目指します。



ミステリーカードの例